

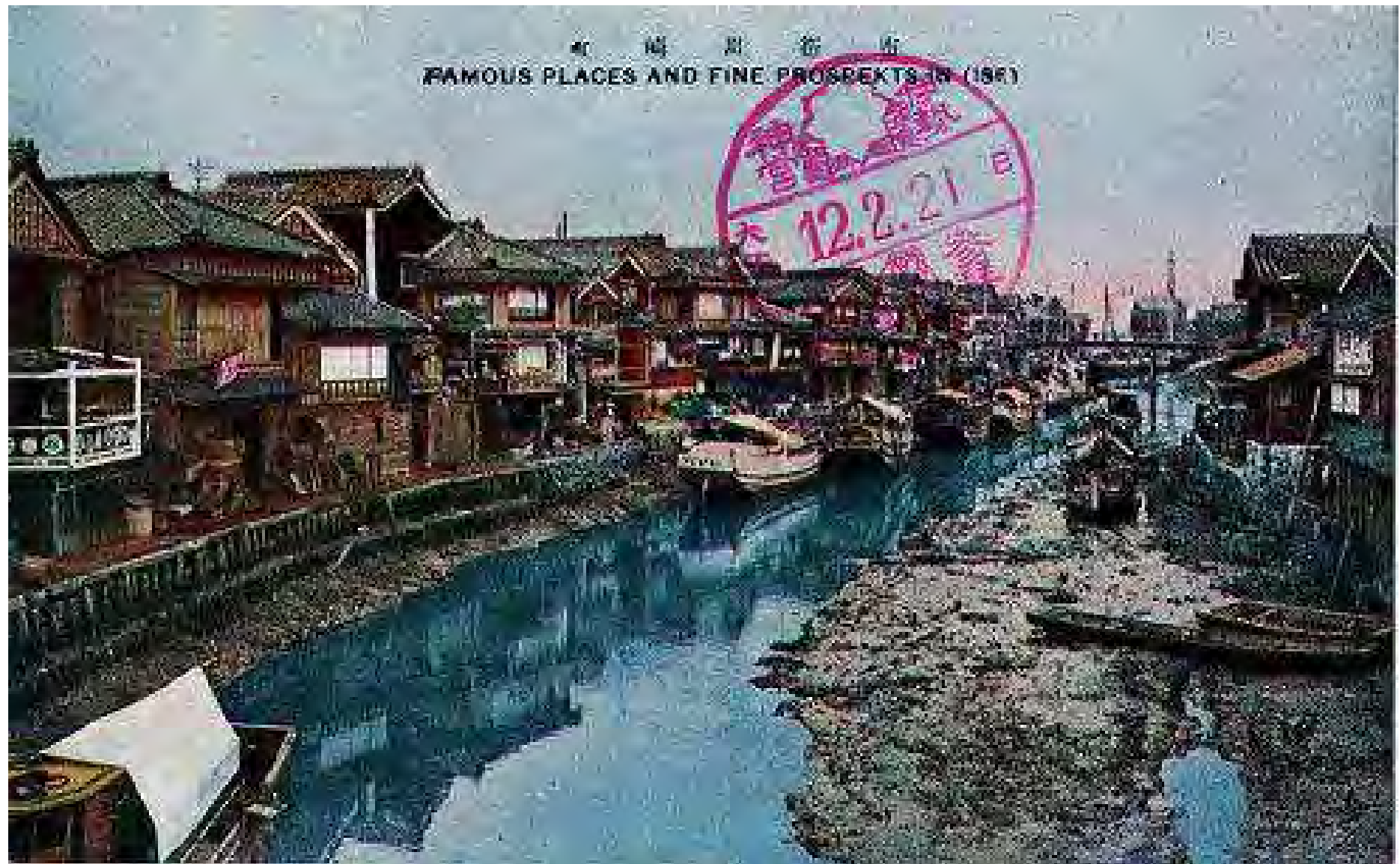
新古写真で巡る 伊 勢 散 歩

—その4—

河 崎 と そ の 周 辺

秋 田 耕 司

勢田川沿いの河崎（大正後期）



勢田川沿いやチンチン電車の駅



中橋から来た新橋方面をみた 河崎の魚河岸 大正初期か？



大正初期



勢田川左岸 昭和54



神都線 河崎駅

昭和35年頃 神久から河崎中橋方向を見る チンチン電車は昭和36年に廃線



河崎





戦国時代初期の15世紀後半、地元の豪士 河崎左衛門大夫宗次が領有し、防衛のため惣門と惣堀(環濠)を備えた町として伝えられている
江戸時代には大勢の参宮客が宿泊する宇治・山田に物資を供給する一大問屋街に成長を遂げ、その繁栄は「伊勢の台所」と呼ばれるほどだった
戦後、物資輸送の主力が陸運に変わるにつれ、徐々に衰退した

環濠で防御された町だった「河崎」

甫(法)蔵主ほとす川



1643~1662 山田惣絵図 (江戸時代前期 伊勢最古の地図)



今も残る環濠後 町の隅に惣門○があった

御屋敷(山田奉行所公事屋敷)1630 開設
1635 7代目奉行花房志摩守により小林に移動



同地は詩人 竹内浩三 の生家跡でもある

一本木



摂取山 善光寺(天台宗)150 前後に開山
威勝寺大師堂を移築



明治41創業 かね 安



傘問屋 西村 円吉 商店 大正12頃



清浄坊橋



川口材木店



榎本三右衛門商店 砂糖石油小麦 昭和6...河崎2丁目
榎本商店裏のレンガ倉庫



里 中



南 新 橋



南新橋への曲がり角「角瀬砂糖店」大正12頃 勢田川右岸



明治初年創業「奥野家 鹿海かのみ屋商店」昭和54



建物の説明板



「堤 家」川守(川役人)の役宅



杉原新吉商店 清酢醸造元 昭和6 向河崎中橋そば



1750創業「村田仙右衛門商店」代々河崎年寄衆 母屋は昭和4建造 広告は昭和6 宇治山田商工案内に記載 村田家の脇の通り



明治末 薬問屋 どこにあったのかな？ 大正10



河崎商人館前の蔵

明治16年**有絹学校**に始まる→**第三尋常**明治41現在地に新校舎落成→**有絹尋常高等**昭和3**小学校**



昭和3 宇治山田市立有絹尋常高等小学校 昭和7 本館完成時



記念館と奉安殿

明治5 学制公布 小学校下等 6-10 歳、上等 10-14 歳→明治14 初等科3年・中等3年・高等2年→明治19 尋常科4年義務+高等科4年
→明治25 7学区制→明治40 義務6年→明治44 7学区制全廃7校設置→大正10 尋常高等小学校と改称

進修→第一、修道→第二、有絹→第三、早修→第四、中島→第五、明倫→第六、厚生→第七

第三尋常 → 有絹小学校



玄関 昭和7以降



講堂

ちょっと逸れますが



足利室町時代創祀 明治4年より 河邊七種なくさ神社 と称す

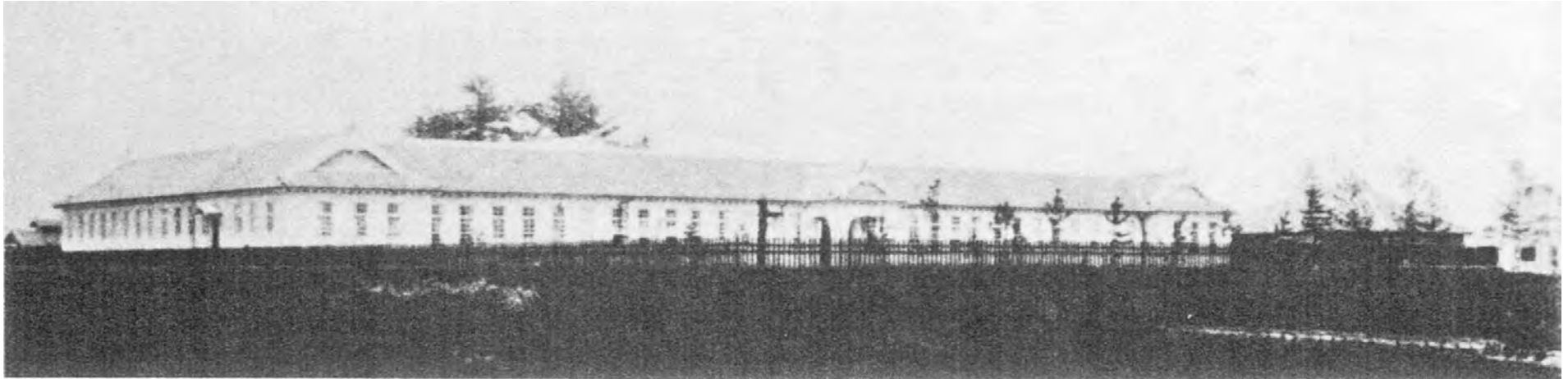


吉家(稲荷)神社



新川楼 鳥居奉納

三重県立第四尋常明治32発足 → **第四**明治34改称 → **宇治山田中学校**大正8改称



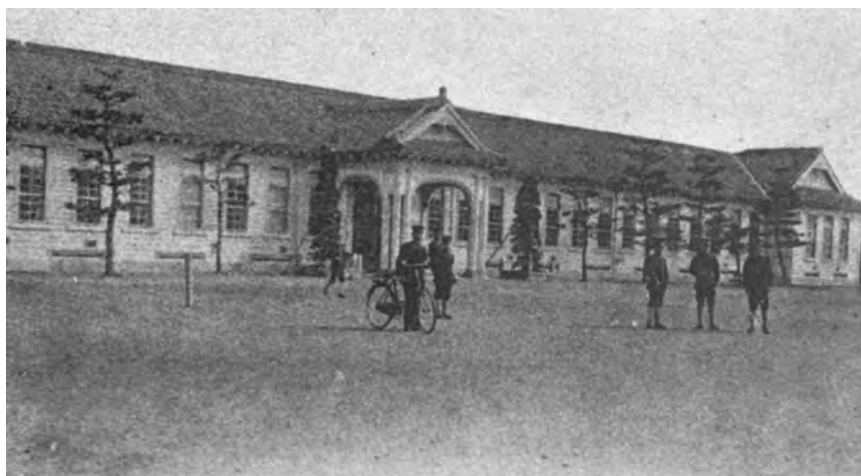
三重県立第四尋常中学校 明治33新築 明治39頃



第四中学校全景 明治39頃



第四中学校運動会 明治39頃



宇治山田中学校 大正8改称



三重県立宇治山田中学校 跡 碑



小津安二郎生誕百年記念碑

少し、戻しまして 旅館 星 出 館



創業昭和元年

北 里 中



中 橋



元禄年間創業陶器問屋 和具屋（大西家）建物は 1757 建造



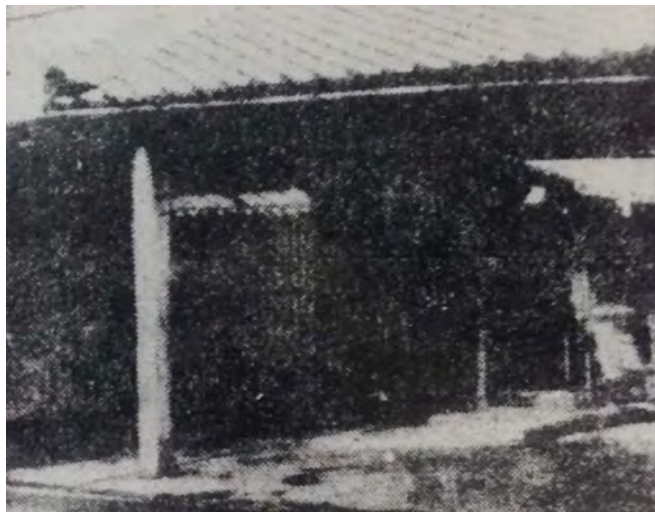
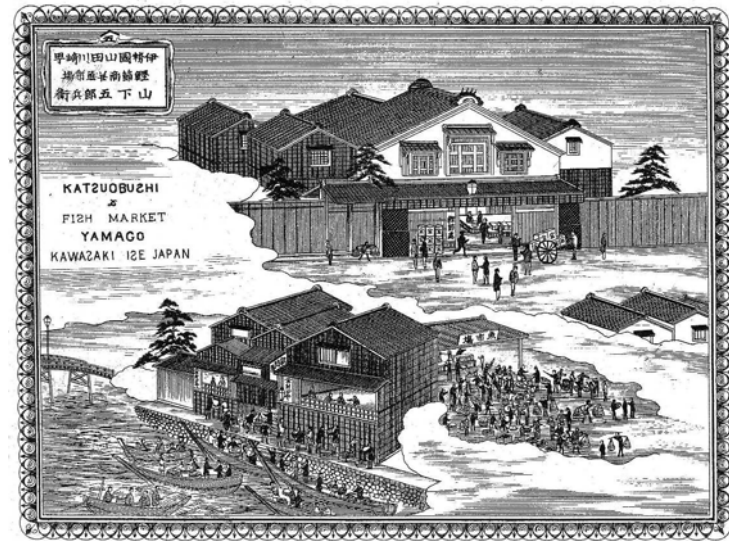
大 長 商 店（中江家）

天保年間創業 乾物問屋 3階建の倉庫は江戸後期の建造

北 里 中



元禄年間創業 山五鯉節店 建物は江戸後期～明治初期建造



魚問屋 山五新問屋 勢田川河岸にあり



北中里 山五新問屋の向かい 伊勢水産会社 大正12頃

ハッ町



北新橋



西山家



元菓子問屋 松本商店 今井家 母屋は天保13建造



和洋酒商 川七 西田七左衛門 神都麦酒製造



中西家



江戸時代創業 酒問屋 小川三左衛門商店 明治末
現 河崎 商人 館



向 むかい 河 崎



明治17 味噌醤油業創業 山崎家 旧桝屋合名会社 建物は江戸後期

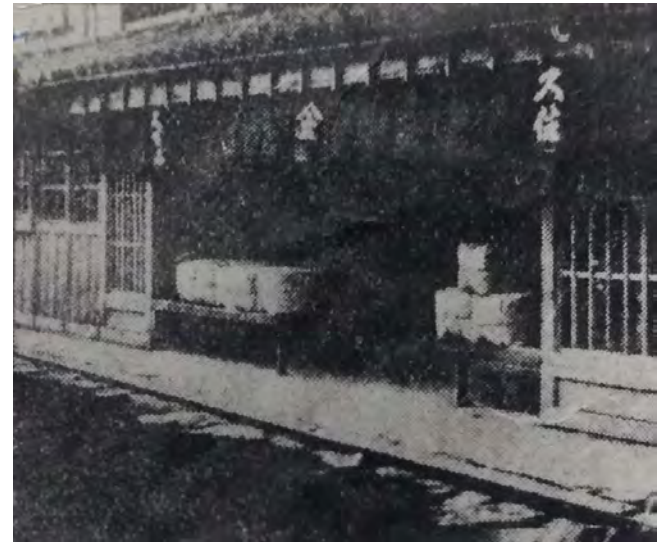


肥料問屋 西川家 母屋は明治初期の建造

向 むかい 河 崎



酢味噌醤油販売 今 崎 家 土蔵は明治建造



久 住 綿 店 勢田川改修に伴い移転 大正12頃



竹 村 漁 網 店 大正12頃



白 木 屋 石 油 問 屋 大 正 12 頃



い な 勢

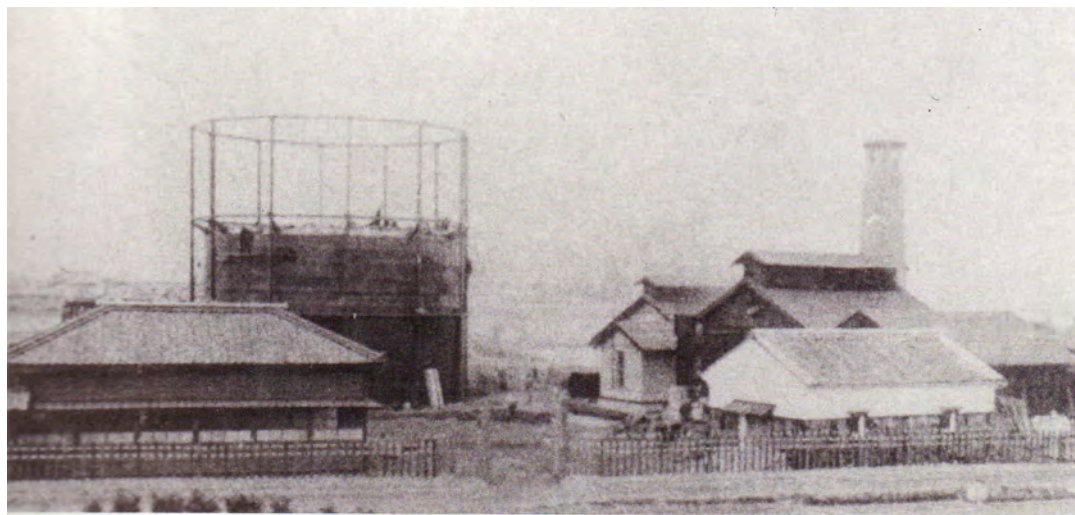
船江町



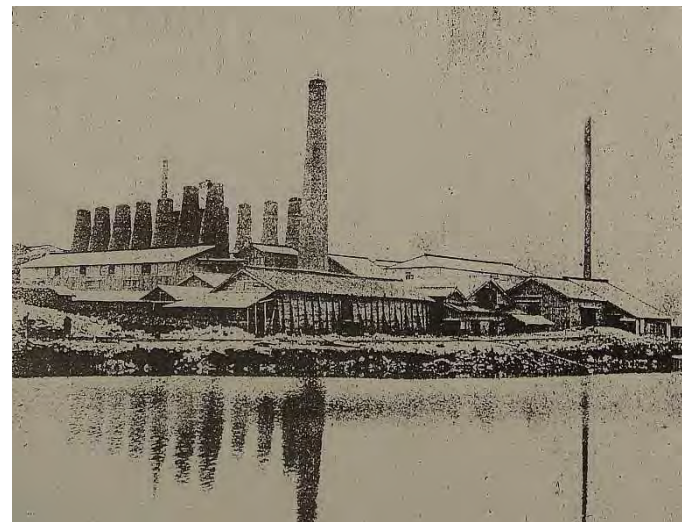
船江町 日東製氷山田営業所 大正12頃



東洋紡績へのトロック鉄路後



合同(神都)瓦斯 明治42創業のガスタンクと合同電気の火力発電所



(神久) 桧尻川河口向いにあった 三重セメント工場

またまた遠回り 神 久



寝起松昭和8



寝起松神社



久志本社

二軒茶屋



二軒茶屋駅



角屋

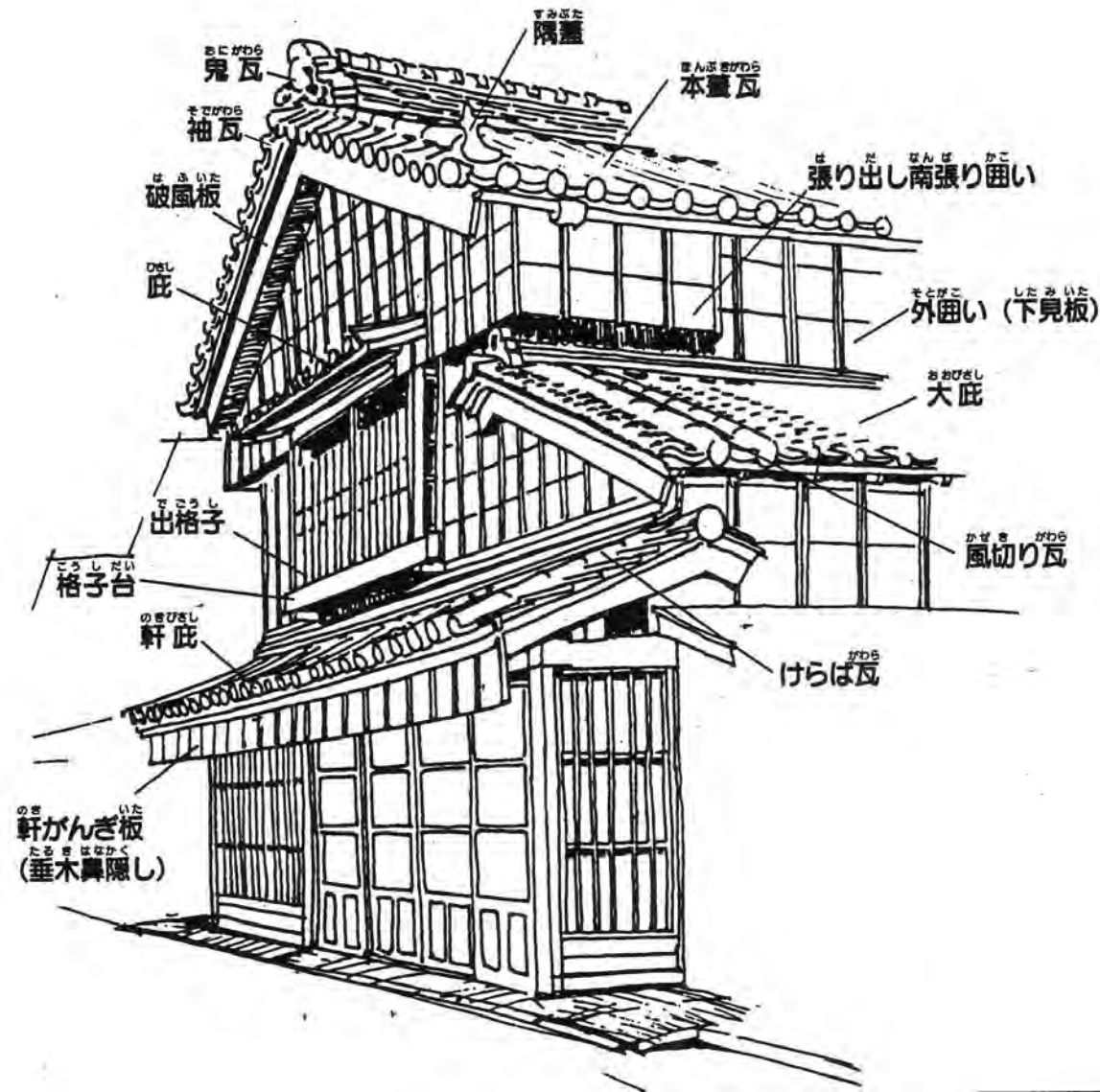


川の駅



明治天皇行幸記念碑

伊勢町家様式



直波風 橋六かまぼこ店



むくり波風 小西萬金丹



反り波風 岡安歯科

鬼瓦と隅蓋 すみぶた



2012版 伊勢・山田から河崎 まちあるき パンフレット よい

日本最古の地域通貨「山田羽書」



紙は 特別発注の 美濃紙

参照:河崎商人館パンフレット、「続・藩札と羽書 MIE のエコマネー」松阪市立歴史民俗資料館企画展冊子



1両 = 4分 = 16朱 = 4000文 = 銀64匁 = 640分 = 1圓(明治)

1両 100,000 円とすると、二八蕎麦 = 16文 = 400円

銀一匁は、÷ 64 = 約 1,600 円

五分 = 5 / 10 匁: 800 円、三分: 480 円、二分: 360 円

藩札

菰野藩札
主税局札



神戸藩札
河内長野飛地銀札



忍藩札
伊勢飛地札



亀山藩札
備中諸産物代預銀札



桑名藩札
米代預切手



鳥羽藩札
参州長沢産物手形



山田羽書の価値は？

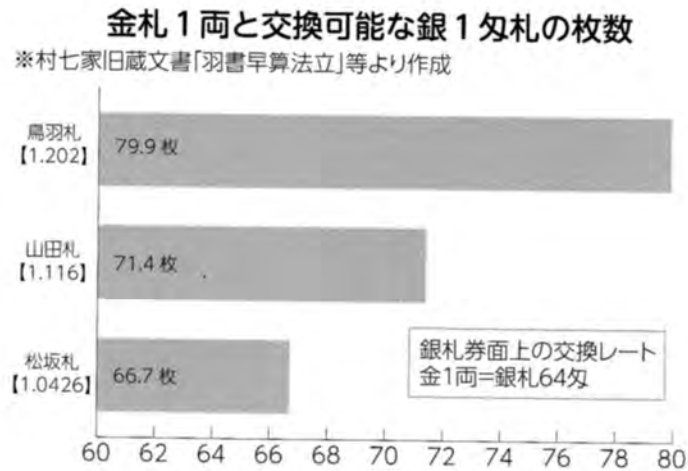
江戸初期から、山田奉行所公認、山田三方から発行され流通し始めた 日本銀行所蔵 1610 が最古

江戸後期には、準公札として流通

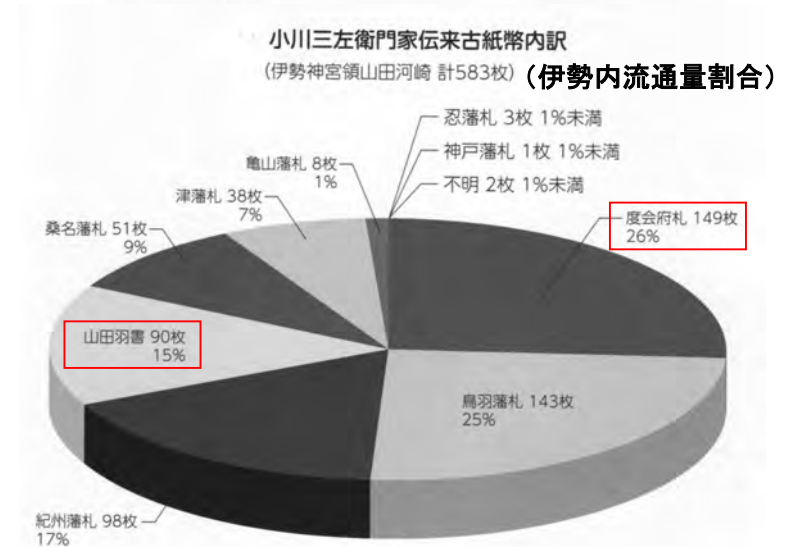
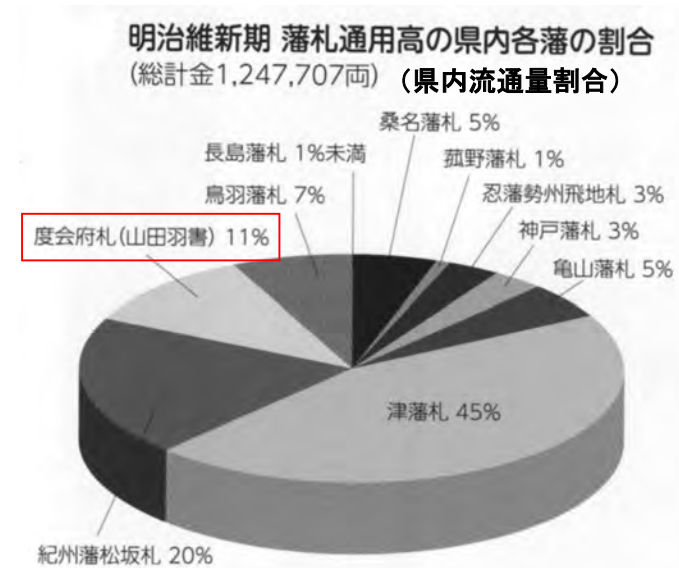
明治初期まで、度会府の管理下で発行され続けた

高い信用性＝発行制度が整っていた
発行額の制限・兌換のための正貨準備・偽造防止印刷

伊勢町衆の経済力と信用力



変動相場だった

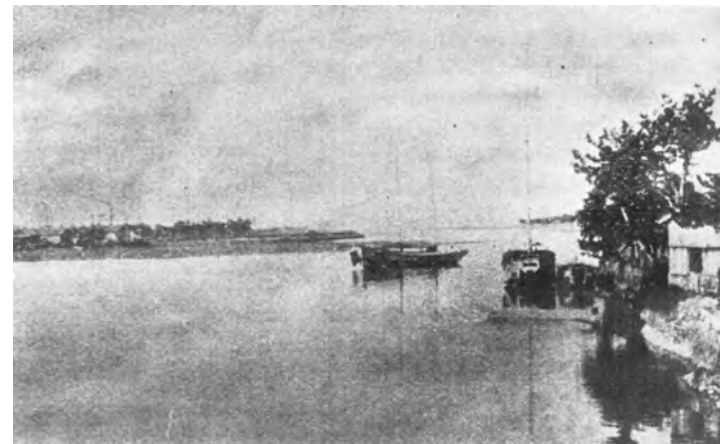


神 社 港

神社港は**万治年間**(1658～61)に港が開かれたといわれている。以後、伊勢の海の玄関口として大いに賑わった港
明治時代、定期船(熱田港～神社港)が開かれてからは各地からの参宮客が殺到し、黄金時代を迎え大いに栄えた
明治20年神社港地誌調書によると、神社港の船舶・貨物の一年間の出入りは、船舶 3,500 艘、蒸気船 8 艘、年間約 1,900 回と記されている
当時、港周辺には船関係の商店、宿屋、遊郭、芝居小屋等があり、たいへん賑やかだったが、鉄道や道路の普及により衰退していった



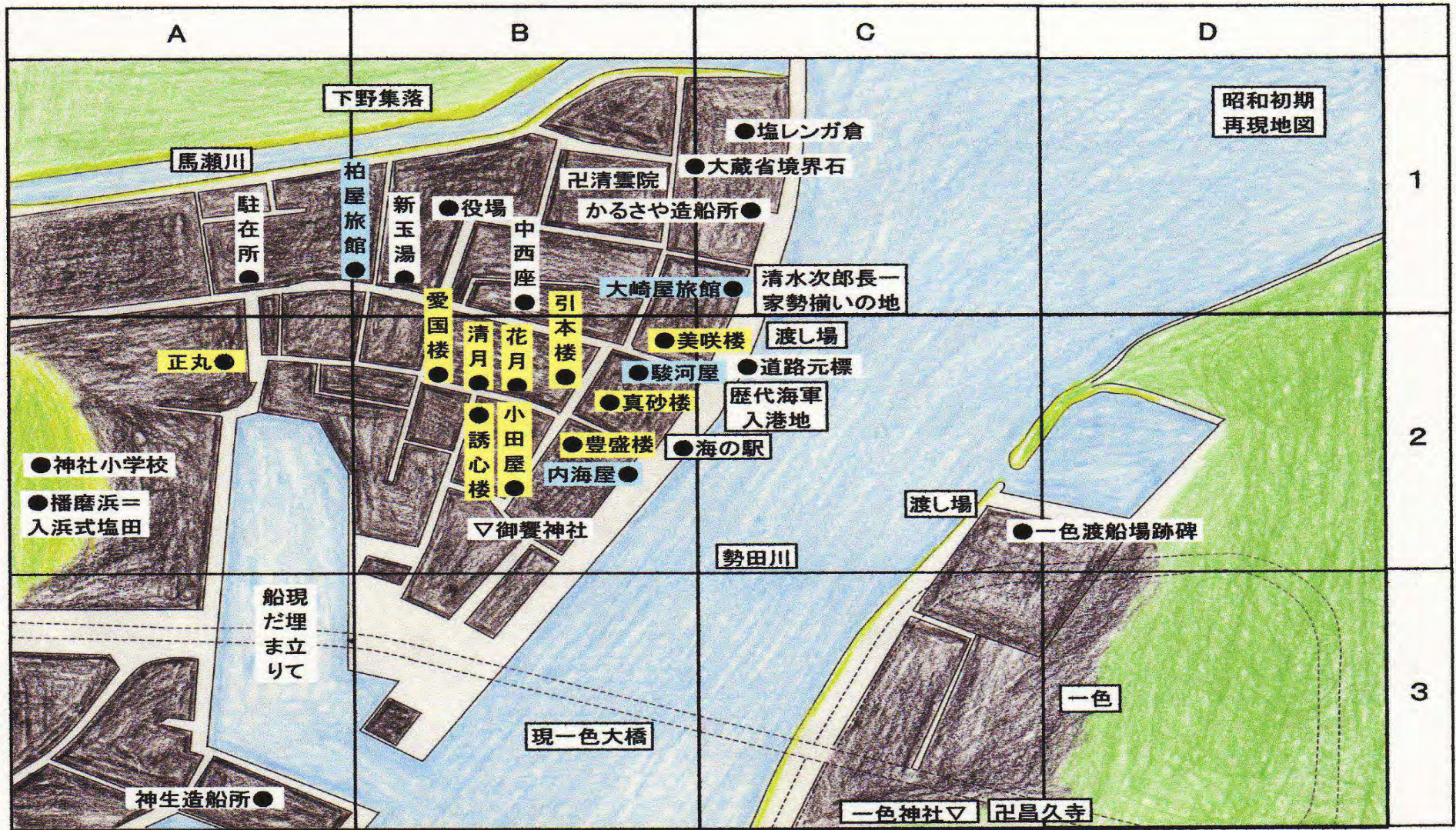
神社港～山田 松並木 昭和26頃 右は港中学校



馬瀬川河口付近 手前右は神社港

伊勢市役所 HP「神社海の駅について」 <http://www.city.ise.mie.jp/11358.htm> より

神社



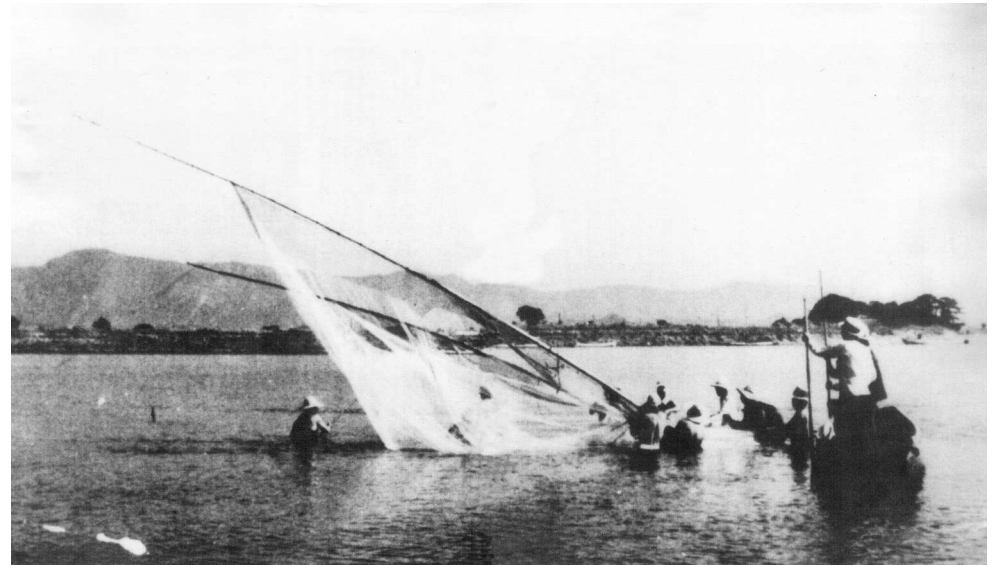
日本海軍連合艦隊 上陸の地：昭和15年まで伊勢神宮参拝を行った。参宮が済めば、水兵さんは……？

清水次郎長一家が勢揃いし伊勢を訪問した時に当地の侠客「白根要助」に世話になり、その御礼として「石灯籠」を送った(海の駅前)

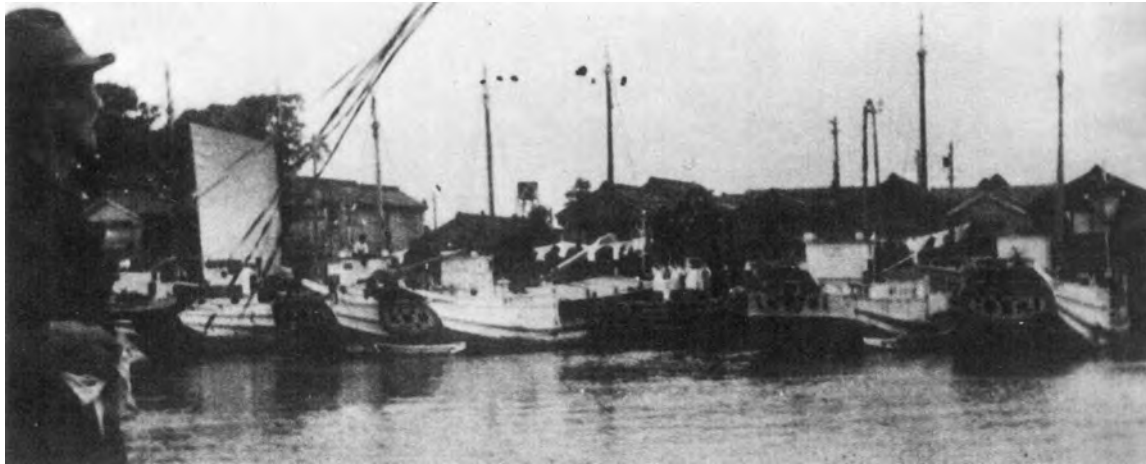
神 社 港



河 岸 小 越 こごし 船 対岸は今一色 明治末か？



漁 網 漁 大正末～昭和初期



昭和初期頃



参宮客のお出迎え 昭和10頃

神社の旅館



柏屋旅館



柏屋旅館玄関



駿河屋

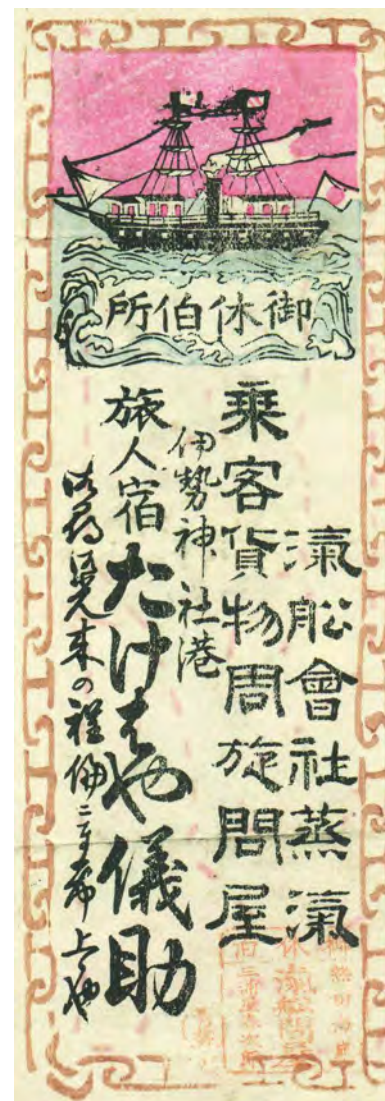


大崎屋

神社の旅館



内海うつみ屋



たけは屋

神社の名所



新玉湯



塩田跡



東照山 清雲院（於奈津でら）家康公側室「於奈津の方」が建立



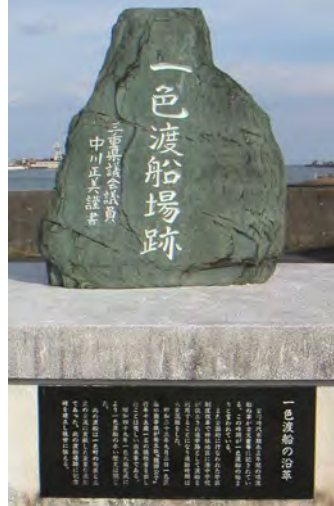
何と言っても穏やかな海

一色

一色の渡し場は**室町末期**には既にあったといわれている。1974年に一色大橋の完成で渡船の歴史は終わりとなったが、最後の12年間は県道船としての役目を果たし、下校時は港中学校の学生さんで混雑したそうだ。



渡船場跡



一色神社



昌久寺の山門と本堂は元橋村大夫邸（常盤町たばこ専売公社）から移築

通



昭和3 船は 堀 松 商 店 の持ち船



「筴」むしろ製造は当地の重要な副業だった

現在



文庫吟筴船積出地跡

「吟」かます(わらむしろでつくった袋)、「筴」むしろ



堀 松 商 店

大湊

鎌倉時代以前から 神宮と東国を結ぶ中継地・伊勢における物流拠点として栄える

南北朝時代 伊勢神宮と南朝・北畠氏との連携が強化された 1338 年
北畠親房・結城宗広らが「大湊」から東国へ向かって船出したことが知られている。(結城宗広の墳墓は光明寺にある。)

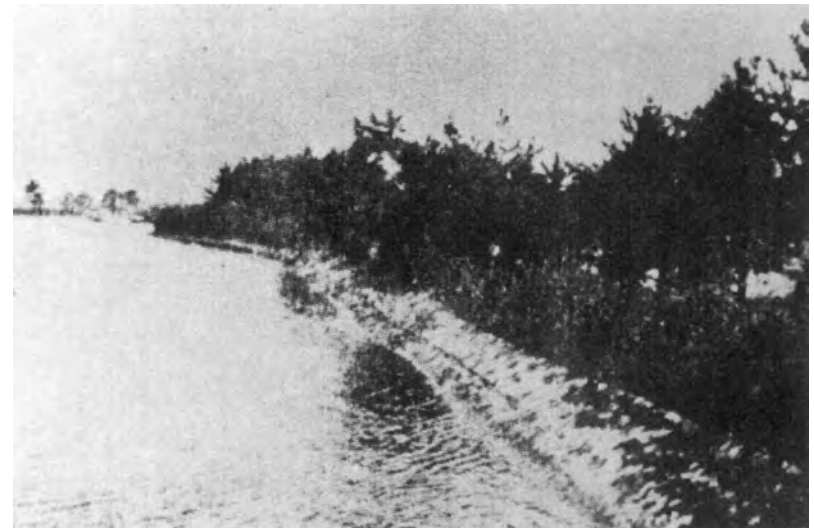
室町時代 堺や博多などと並ぶ日本の代表的な商業都市の1つとなる

安土桃山時代 伊勢湾は織田方の九鬼嘉隆に支配された。この時、信長が九鬼嘉隆に命じて「鉄甲船」を大湊に作らせた

江戸時代 廻船問屋が自治を司り、廻船業者を対象とした船宿も発達し、港町としての繁栄を続けた
しかし、河口の土砂堆積による港湾機能の衰えと鳥羽の台頭もあり、次第に衰退していく。



大湊港 昭和10



大湊の防波堤 昭和05頃

Wikipedia「大湊(伊勢市)」[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%B9%8A_\(%E4%BC%8A%E5%8B%A2%E5%B8%82\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%B9%8A_(%E4%BC%8A%E5%8B%A2%E5%B8%82))より

大湊の町なみ



三村屋旅館・呉服店 山田行き乗合自動車停留所 山中眼科
大正11運行 昭和初期



現在
かない逸れますが、鹿海かのみ



阿場池（神宮御用材）貯木場 大湊東北
1727 山田奉行が築営 昭和43埋立



五十鈴川改修前 明治40頃

菊川鉄工所

港としての役割を失っても、古くから造船の町として栄えており、造船に関連して、家釘、船釘、錠などの鉄工業も発達していた。



明治29年創業 菊川鉄工所 昭和初期 船は「ベカ」宮川の砂利を大湊や神社の砂利運搬船に運んだ平底船



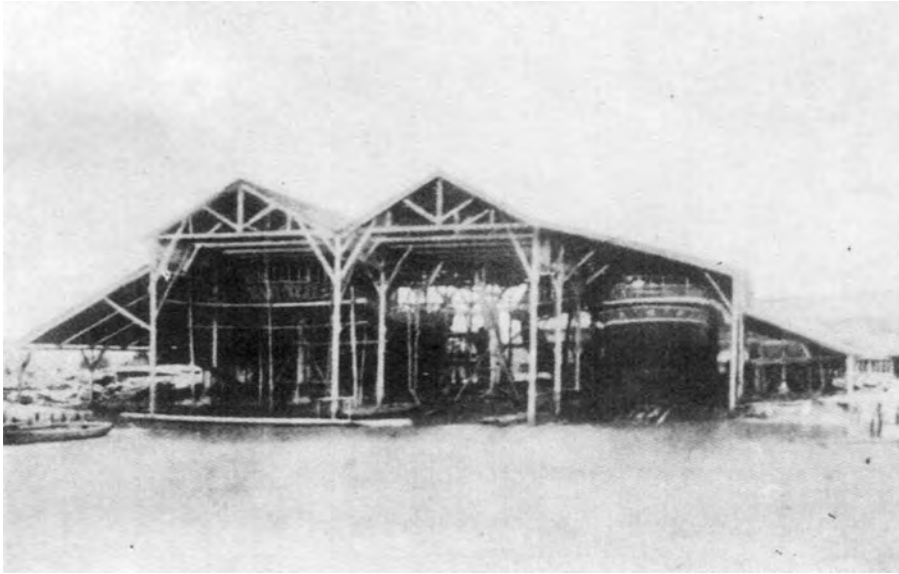
大正末



昭和28

大湊の造船所

近代になり高度経済成長期まで日本の造船業は繁栄したが、オイルショック期からは「大湊」においても造船産業は衰退した



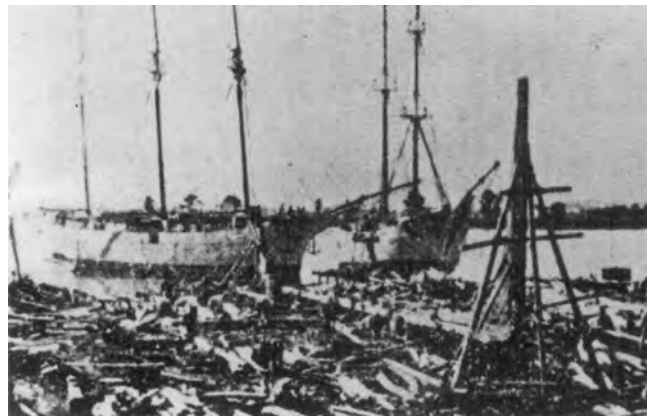
強力造船所 昭和10頃



強力造船所貯木場（海水により木材を改質）

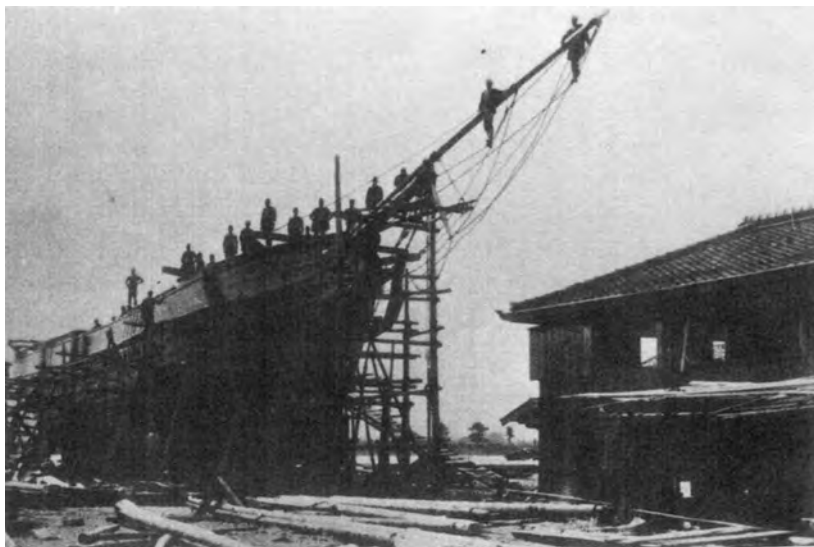


明治40代 市川造船所（大湊で最古の造船所）



大正10 陸軍省付属漁業監視船 進水式

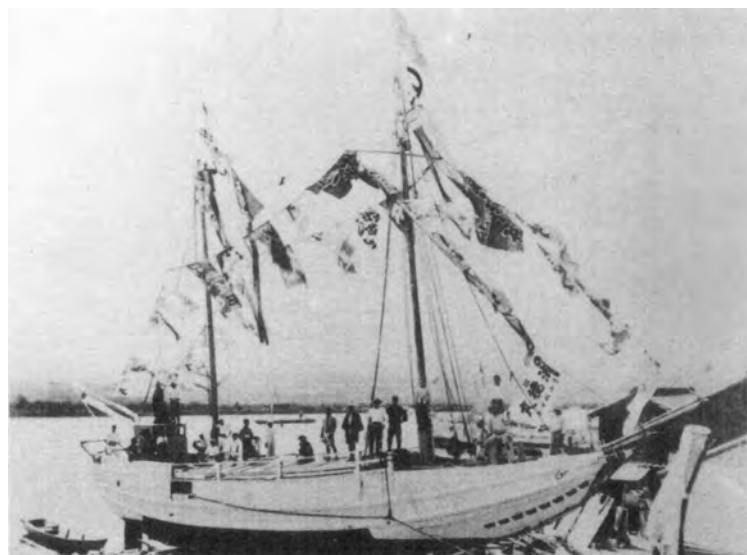
大湊・竹ヶ鼻



大湊 松崎造船所 明治43



竹ヶ鼻 出口造船所 160+木造貨物船 昭和12



団平船 30+進水式 大正13



謝 辞

伊勢郷土史研究家 山 田 修 司 氏（ブログ「いにしえの伊勢」）及び 飯 田 良 樹 氏 には資料の提供、ならびに、ご指導をいただきました

参 考 文 献

昭和61年 ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 伊勢 二見 小俣（株）国書刊行会

平成4年 図説 伊勢・志摩歴史＜下巻＞（株）郷土出版社

平成2年 目で見ると読む 伊勢・志摩の100年（株）郷土出版社

伊勢度会人物誌、神都名家集、宇治山田市史、最新 伊勢市史 ほか

筆者プロフィール：伊勢市大世古町生まれ、平塚市在住 近世伊勢参宮名所図会（伊勢探訪記）、伊勢度会近世名軸図鑑、御師研究などを
ホームページ <http://nfc.no.coocan.jp/index.htm> にて公開中 ご質問などありましたら、koji.akita@nifty.com までご連絡下さい